

Wagner 'Der Ring des Nibelungen'
The 20th Anniversary
Gala Concert

指揮: マレク・ヤノフスキ
Conductor: Marek Janowski

ソプラノ: エレーナ・パンクラトヴァ
Soprano: Elena Pankratova

テノール: ヴィンセント・ヴォルフシュタイナー
Tenor: Vincent Wolfsteiner

バリトン: マルクス・アイヒェ
Baritone: Markus Eiche

ソプラノ: 富平安希子
Soprano: Akiko Tomihira

ソプラノ: 中畑有美子
Soprano: Yumiko Nakahata

メゾ・ソプラノ: 秋本悠希
Mezzo-soprano: Yuki Akimoto

メゾ・ソプラノ: 金子美香
Mezzo-soprano: Mika Kaneko

メゾ・ソプラノ: 杉山由紀
Mezzo-soprano: Yuki Sugiyama

他
/etc.

管弦楽: NHK交響楽団
Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン
Musical Preparation: Thomas Lausman

東京春祭
20th
Spring Festival in Tokyo

東京春祭
20th
Spring Festival in Tokyo

指揮: マレク・ヤノフスキ
Conductor: Marek Janowski

トリスタン: スチュアート・スケルトン
Tristan: Stuart Skelton

マルケ王: フランツ・ヨゼフ・ゼーリヒ
König Marke: Franz-Josef Selig

イゾルデ: ビルギッテ・クリステンセン
Isolde: Birgitte Christensen

クルヴェナール: マルクス・アイヒェ
Kурwenal: Markus Eiche

メロート: 甲斐栄次郎
Melot: Eijiro Kai

ブランゲーネ: ルクサンドラ・ドノーセ
Brangäne: Ruxandra Donose

牧童: 大槻孝志
Ein Hirt: Takashi Otsuki

舵取り: 高橋洋介
Ein Steuermann: Yosuke Takahashi

若い水夫の声: 金山京介
Stimme eines jungen Seemanns: Kyosuke Kanayama

管弦楽: NHK交響楽団
Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ
Chorus: Tokyo Opera Singers

合唱指揮: エベルハルト・フリードリヒ
Chorus Master: Eberhard Friedrich

合唱指揮: 西口彰浩
Chorus Master: Akihiro Nishiguchi

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン
Musical Preparation: Thomas Lausmann

(Concert Style / With Japanese Subtitles)

Tristan und Isolde
Tokyo-HARUSAI Wagner Series Vol.15

ワーグナー ニーベルングの指環 ガラ・コンサート

The 20th Anniversary

2024 4.7^[日]
15:00 April 7 [Sun.] 15:00
東京文化会館 大ホール
Tokyo Bunka Kaikan, Main Hall

S ¥16,500 A ¥14,500 B ¥12,500
C ¥10,500 D ¥8,500 E ¥6,500 U-25 ¥3,000 (税込)

※U-25は2月15日[木]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)

チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス
www.tokyo-harusai.com



(座席選択可・登録無料)
チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

N響ガイド 0570-02-9502
WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

050-3496-0202 (月・水・金 10:00-15:00)
※音楽祭開催期間中は土・日・祝日を含め10:00-19:00



主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 後援:ドイツ連邦共和国大使館/日本ワーグナー協会
助成:公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

(演奏会形式 / 字幕付)
全3幕 上演時間:約5時間(休憩2回含む)

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

トリスタンとイゾルデ

2024
3.27^[水] 15:00 3.30^[土] 15:00
March 27 [Wed.] 15:00 / March 30 [Sat.] 15:00

東京文化会館 大ホール
Tokyo Bunka Kaikan, Main Hall

S ¥26,500 A ¥22,000 B ¥18,000
C ¥14,500 D ¥11,500 E ¥8,500 U-25 ¥3,000 (税込)

※U-25は2月15日[木]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)

チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス
www.tokyo-harusai.com



(座席選択可・登録無料)
チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

N響ガイド 0570-02-9502
WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

050-3496-0202 (月・水・金 10:00-15:00)
※音楽祭開催期間中は土・日・祝日を含め10:00-19:00



主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 後援:ドイツ連邦共和国大使館/日本ワーグナー協会
助成:公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

東京春祭ワグナー・シリーズ vol.15

《トリスタンとイゾルデ》全3幕 演奏会形式／字幕付



©Sim Canetty

スチュアート・スケルトン / トリスタン(テノール)

Stuart Skelton / Tristan (Tenor)

オーストラリア・シドニー生まれのヘルデンテノール。主な役柄は、《ローエングリン》、《リエンツィ》、《バルジファル》のタイトルロールの他、《さまよえるオランダ人》エリック、《ニーベルングの指環》ジークムント等。メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、パリ・オペラ座、バイエルン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ドレスデンのゼンパー・オーバー、ウィーン国立歌劇場等に登場。



ビルギッテ・クリステンセン / イゾルデ(ソプラノ)

Birgitte Christensen / Isolde (Soprano)

ノルウェー生まれのソプラノ。オスロの国立音楽アカデミーで学ぶ。これまでに、チューリヒ歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン・ゼンパーオーバー、シュトゥットガルト州立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場他で、ベートーヴェン(レオノーレ)、グルック(トリードのイフィジェニー)、ヴェルディ(アイーダ)のタイトルロールの他、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ、《椿姫》ヴィオレッタ、《トゥーランドット》リュウ、《仮面舞踏会》アメリア等を歌った。



甲斐栄次郎 / メロート(バリトン)

Eijiro Kai / Melot (Baritone)

東京藝術大学大学院修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークへ、五島記念文化財団の助成によりボローニャへ留学。2003年ウィーン国立歌劇場にデビューし、以来10年間、専属ソリストとして42役336公演に出演。コンサートソリストとしても、全国各地のオーケストラ、指揮者より絶大な信頼を得ている。東京・春・音楽祭にも23年の《トスカ》をはじめ、たびたび登場。東京藝術大学教授、聖徳大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、二期会会員。



©marion koell

フランツ＝ヨゼフ・ゼーリヒ / マルケ王(バス)

Franz-Josef Selig / König Marke (Bass)

ドイツ生まれのシリアス・バス。ケルン音楽舞蹈大学で宗教音楽を学び、エッセンのアアルト劇場のアンサンブル・メンバーを経てフリーランスに。バイエルン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、メトロポリタン歌劇場や、バイロイト音楽祭、バーデン＝バーデン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、エクサン・ブロヴァンス音楽祭等に出演。マルケ王、グルネマンツ、ダーラント、ファーンルト等を得意とし、今夏のグライントポーン音楽祭でもマルケ王を歌う。



©Michael Poehn

マルクス・アイヒェ / クルヴェナール(バリトン)

Markus Eiche / Kurwenal (Baritone)

独ザンクト・ゲオルゲン生まれ。シュトゥットガルトやカールスルーエの音楽大学で学ぶ。マンハイム国民劇場でキャリアをスタートした後、ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場と専属契約を結び、主要な役を歌う。ワグナー歌手として高く評価され、2007年からバイロイト音楽祭に定期的に出演。ミラノ・スカラ座、ベルリン国立歌劇場、バルセロナのリセウ大劇場、チューリヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭他にも多数登場。16年からフライブルク音楽大学声楽科教授。



©Serban Mestecineanu

ルクサンドラ・ドノーセ / ブランゲーネ(メゾ・ソプラノ)

Ruxandra Donose / Brangäne (Mezzo-soprano)

ルーマニア出身のメゾ・ソプラノ。特にモーツァルトとフランスのオペラ・レパートリーに定評があるが、近年は独塊系のドラマティックな役柄にも取り組んでいる。主な出演に、サー・サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルとの《バルジファル》クンドリ、ウラディール・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルとの《ワルキューレ》ジークリンデやジュネーヴでの「指環」チクルスにおけるフリッカ、チューリヒ歌劇場とウィーン国立歌劇場における《オレスト》エレクトラ等がある。



©Vitaly Zapryagaev

エレナ・パンクラトヴァ / エレーナ(ソプラノ)

Elena Pankratova (Soprano)

ロシアのエカテリンブルク生まれ。指揮とピアノを学んだ後、サンクトペテルブルク音楽院を卒業。イタリアとスペインの国際声楽コンクールで優勝。イタリア人ソプラノのレナータ・スコットに師事。これまでに、メータ、ゲルギエフ、ペトレンコ、ティーレマン、ピシュコフらと共演し、ミラノ・スカラ座、マリンスキー劇場、ウィーン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場、オランダ国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、バイロイト音楽祭等に登場。2019年、東京・春・音楽祭でシェンベルク《グレの歌》トヴェを歌った。



©Ludwig Olah

ヴァインセント・ヴォルフシュタイナー / ヴァインセント(テノール)

Vincent Wolfsteiner (Tenor)

ミュンヘン生まれ。ニューイングランド音楽院でウィリアム・コットンに学ぶ。近年は《サロメ》ヘロデでウィーン国立歌劇場に出演した他、ベルリン国立歌劇場、ボリショイ劇場等に登場。2022年の東京・春・音楽祭(ローエングリン)ではタイトルロールを歌った。コンサート歌手としても積極的に活動しており、モーツァルト(レクイエム)、ベートーヴェンの交響曲第9番、メンデルスゾーン《エリヤ》、シューマン《ゲーテのファウストからの情景》、シェンベルク《グレの歌》、マーラーの交響曲第8番や《大地の歌》等をレパートリーとしている。

マルクス・アイヒェ / マルケ王(バリトン)

Markus Eiche (Baritone)

富平安希子 / エレーナ(ソプラノ)

Akiko Tomihira (Soprano)

秋本悠希 / エレーナ(メゾ・ソプラノ)

Yuki Akimoto (Mezzo-soprano)

杉山由紀 / エレーナ(メゾ・ソプラノ)

Yuki Sugiyama (Mezzo-soprano)

中畑有美子 / エレーナ(ソプラノ)

Yumiko Nakahata (Soprano)

金子美香 / エレーナ(メゾ・ソプラノ)

Mika Kaneko (Mezzo-soprano)

他

/etc.

ワグナーを『聴く』

2010年から続き、東京・春・音楽祭の代名詞ともいえる存在となった「ワグナー・シリーズ」。長大でスケールが大きいワグナー・オペラを、舞台演出を伴わない「演奏会形式」で上演することにより、「音楽そのもの」に集中し没入して『聴く』ことが叫びます。

2024年は、ついに《トリスタンとイゾルデ》の上演がコロナ禍による中止を経て実現、スチュアート・スケルトン、ビルギッテ・クリステンセンなど世界の第一線の舞台上で活躍するワグナー歌手たちが東京―上野に集います。

また、東京・春・音楽祭20年を記念するガラ・コンサートでは『ニーベルングの指環』の4作品から選りすぐられた名場面の数々をお贈りします。2014年から4年をかけた「ワグナー・シリーズ」で1作ずつ上演した「ハルサイ・リング」の熱狂が再び甦ります。世界屈指のドラマティック・ソプラノ、エレナ・パンクラトヴァ、2022年の《ローエングリン》タイトルロールで聴衆を沸かせたヴァインセント・ヴォルフシュタイナー、バイロイト音楽祭の常連歌手マルクス・アイヒェらが壮大な世界へと誘います。

指揮は、いずれもドイツの巨匠、マレク・ヤノフスキ、オーケストラは長年ワグナー・シリーズで協演を重ね、濃密な関係を築きあげたNHK交響楽団。どうぞお聴き逃しなく！

大槻孝志 / 牧童(テノール)

Takashi Otsuki / Ein Hirt (Tenor)

高橋洋介 / 舵取り(バリトン)

Yosuke Takahashi / Ein Steuermann (Baritone)

金山京介 / 若い水夫の声(テノール)

Kyosuke Kanayama / Stimme eines jungen Seemanns (Tenor)

東京オペラシンガーズ / 合唱

Tokyo Opera Singers (Chorus)

NHK交響楽団 (管弦楽)

NHK Symphony Orchestra, Tokyo (Orchestra)

1926年に新交響楽団として結成。51年にNHK交響楽団と改称。以来、今日に至るまで、世界一流の指揮者を次々と招聘、話題のソリストたちとも共演し、歴史的公演を残してきた。2013年8月、ザルツブルク音楽祭に初出演、20年春にはヨーロッパ主要9都市で公演を行うなど、その活動ぶりと演奏は国際的にも高い評価を得ている。現在、年間54回の定期公演をはじめ、全国各地で約120回のコンサートを行い、その演奏はNHKの放送を通じて国内外に広く紹介されている。また次世代を育てる教育プログラムや社会貢献活動にも注力している。

マレク・ヤノフスキ (指揮)

Marek Janowski (Conductor)

ポーランド・ワルシャワに生まれ、ドイツで教育を受ける。アシスタント指揮者として経験を積み、フライブルク・イム・プライスガウ(1973～75年)やドルトムント(75～79年)で音楽総監督の地位に就いた。ドルトムント時代に評価を高め、ヨーロッパの主要な歌劇場に登場。70年代後半から、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場、バイエルン国立歌劇場をはじめ、シカゴ、サンフランシスコ、ハンブルク、ウィーン、ベルリン、パリ等の世界的な歌劇場・コンサートホールに定期的に客演。90年代から、ワグナー、R.シュトラウス、ブルックナー、ブラームス、ヒンデミット、新ウィーン楽派等、独塊系のレパートリーに集中するようになる。特にベルリン放送交響楽団とのワグナー・チクルスは演奏会形式による新しいスタンダードを築いた。

20th Anniversary Special Talk

マレク・ヤノフスキ × 鈴木幸一

(東京・春・音楽祭実行委員長)

音楽祭公式サイトでぜひお読みください。



東京の春の訪れを、音楽を介したお祭りで祝う――

明治以来、日本における文化・芸術の集積地として発展を続けてきた上野の杜を舞台に、桜の季節に開催する音楽祭です。20回目の春を迎える2024年も、国内外から一流アーティストが集い、演奏会形式のオペラや室内楽、歌曲リサイタルをはじめ、美術館・博物館でのミュージアム・コンサートなど充実したラインナップでお届けいたします。その他、お子様に楽しんでいただけるプログラムや、上野界限やオフィス街、街角での小さな無料のコンサート「桜の街の音楽会」も予定。心躍る春を様々な音色で彩ります。

www.tokyo-harusai.com